

第 2694 回例会 2021 年 6 月 10 日 (木)

SAA/平野委員長 会報担当/ 川島事務局

- 点 鐘 本郷会長
- ソ ン グ 君が代 奉仕の理想 4つのテスト
- お客様 無し

● 本郷会長 ご挨拶



皆さんこんにちは。
前回につづきzoomによる
リモート例会をハイブリッ
トで実施致します。
千葉県のみん延防止等重点
措置が6月20日迄延長
されました。

引きつづき皆さんには、自粛をお願いし、健康に過
ごして頂きたいと思ひます。

本年度の例会も今日を入れて2回、次回24日が
最終例会となります。又18日(金)に千葉で
2790地区第4グループの正副会長幹事懇親会が
事務局も含め開催されます。毎年今時分になると
あるのですが、6クラブの新旧会長幹事と事務局の
顔見せとなります。これが終わると、ぐ〜んと
肩が軽くなるような、気がします。

なぜなら昨年この会が終わったあと肩がぐ〜と重く
感じたのを、覚えてます。重圧感と責任感を私なりに
感じたのだと思ひます。

最後になりますが、会員の皆様には、これからも
自粛をお願いし、健康に、お過ごし下さい。

そして新型コロナウイルス感染拡大が一日も早く
完全終息する事を祈ります。

● 野口幹事 幹事報告



千葉西RCより

「いのちの電話」

チャリティーコンサート
協賛広告へのご協力の
お願いがありまして、
当クラブも協力したいと
思ひます。

国際RCより地区役員

委嘱状が届きまして、当クラブから地区諮問
委員会の委員として白鳥会員・地区危機管理
委員会の委員長として津留会員になって
おります。薬物乱用 国連支援募金にご協力
お願い致します。

● ニコニコ報告

角谷会員・・・会社(協友工業(株))のHPが
完成しました。

宮地会員・・・マトマリの無い卓話をお聞き頂き
ありがとうございました。

宮武会員・・・本日は多くの会員の皆様に
R-刈-財団への寄付をありがとうございます。
おかげさまで本年度の目標を達成する事が
出来ました。

本郷会長・野口幹事・・・宮地会員本日は卓話を
頂きありがとうございました。

R-刈-財団の寄付にご協力を頂いた会員の皆様
ありがとうございます。

● 本日のメインプログラム

会員卓話 宮地会員

● 出席報告

前々回確定 56.89% 出席者38名 欠席者28名

本日出席率 60.31%

本日の司会
S A A 平野委員長
木下会員

例会場 1階 11名 2階 27名
懐石料亭 淡粋



奉仕プロジェクト委員会

宮武委員長より

米山記念奨学会・ロータリー日本財団への寄付
皆様のご協力があり目標額達成致しました。
ありがとうございました。

● 本日のメインプログラム

宮地会員 卓話



皆様こんにちは、本日は卓話を依頼されましたので よろしくお願
いたします。再度の入会を皆さまに賛成をいただき誠にありが
とうございました。まず再入会の理由は2014～2015年の時で以前
の話になりますが、私が会長を仰せつかった時に本郷さん入会3年
目でしたが無理に幹事をお願いし努めて頂きました。その関係も
あり本郷さんが会長の時には何かお手伝いする事があれば
と言う事で再度入会をせて頂いたわけです。現在は新しい会員の
方がたくさん入会されていますので、改めまして私の職業と自己
紹介から始めさせていただきます。私の職業は設計業です。
設計の内容は石油及び石油化学コンビナートのプラント装置の
管設計です又、ライオンの様に石鹼・歯みがきを代表するものや食品を製造するファインケミカルの装置
設計で特に配管設計が主な仕事です。設計の思想としては5つの思想があります。

- 1、コストを第一とする設計（曲がりや溶接部を少なくする）
- 2、メンテナンスを考慮した設計（修理の時等を考慮してスペースを設ける等）
- 3、アクセスを考慮した設計（装置を運転するオペレーターがスムーズに装置内チェックできる様に）
- 4、将来の増設を考慮した設計（顧客の意見を聞きながら）

5、プロセスラインの流れをシンプルにする設計(これは流れる流体により変わりますが)

6、美的鑑賞条件の設計(一般の方が工場見学する場合美しいと感じられる様な設計)

これらをもとに諸条件決めていくわけですが、当時としてはT定規に変わるドラフターで作図を

していました。1年が過ぎてS44年(1969年)に設計応援で福島のカレハ化学で

塩化ビニリデンプラントをロシアに輸出するプロジェクトに配属されてカレハ化学の設計事務所で設計

応援を経験させて頂きました。応援も終わり、26才の時にチャンス到来です。自分が設計した現場の監

督業務の出張が有りました。岡山県水島のコンビナートです。現在三菱瓦斯化学ですが、当時は日本瓦

ス化学と言っていました。装置はテレフタル酸(ペットボトルや衣料の原料)プラント建設でした水島

では連続して同様のプラントを3プラント建設しました。そんな経験があり33才の時に同様のプラント

装置で台湾の高雄に現場工事管理で赴任しました。プラント建設名はCAP建設工事です

テレフタル酸装置は当時人気プラントでCAP5期まで建設工事が続き約20年位は続いたと思いま

す。後で起こす会社からも第4期工事で3人現地へ赴任いたしました。この装置の特許はアメリカ

のアモコ社のプロセスでしたので元受けはアメリカ企業のアモコ社でした。

33才から34才で2年弱の出張でした。帰国後今度は国内のプラント建設でライオン千葉工場の

粉せっけん(当時は無リントップ)工場建設メンバーにアサインされました。建設現場は市原の八幡で

す。当時京葉製作所(現在の旭硝子エンジニアリングです)に小機器や架台関係の製作依頼をしていま

した。その縁があり独立して京葉製作所の仕事を手伝う様になったわけです。

1983年(昭和58年)4月に東日本エンジニアリングを設立しました。38才でした。

但し、独立にあたり1年間は所属会社関係の仕事はタブーなんです。それで当時の所長の口利きで下請

け会社の仕事で幕張食品コンビナートにて牛脂を原料としたハンドクリームの組成製品装置を建設する

為現場設計から現場管理までの仕事でスタートしました。

次の仕事は茨城県鹿島で苛性ソーダーを製品とするプラント建設です。設計は電解設備の2期工事で現

場管理までを依頼されました。設計は五井の顧客の会社へ出向し設計者5人を横浜鶴見からお願いし五

井に呼びました。当時長期出張は当たり前の事で家族の事は二の次でした。

顧客設備の製品は苛性ソーダーでした。副産物も沢山あり2期工事だったので装置は運転されていま

した。副産物では塩素ガスや水素・塩酸など配管内にはあると言う事で相当の注意を払った現場工事で

した。今までは鉄ものばかりの設計でしたが電解設備の使用材料は、樹脂管や塩ビ管が多く設計手法も違

い苦勞をしました。配管の伸びも鉄ものとは違う等苦勞の中でも学習しながら頑張りました。

人手不足でしたがライオン千葉工場の石鹼のもとになるスルホン化設備の2期工事・乾燥設備の増設工

事等を受注し手掛けるようになりました。8時から17時まではAGCの設計です。17時から朝4時まで

はライオンのスルホン化設備の2期工事の設計です。そんな仕事は4ヶ月くらい続いたと思います。

設計が終わらないうちに現場工事の段取りが始まりました。そんな時に本郷さんとの出会いがありまし

た。スルホン化設備の2期工事でライオン千葉工場の建設工事で来られていたと思います。

本郷さんとコンタクトをするのは建設工事が始まってからしばらくしてからでした。

スルホン化設備の設計は17時から朝までで作業した場所は仮設事務所を土地を借りて6人ほどで

仕事をしていました3人は顧客のOBの方や友人で応援してもらいました。

ハローワークに求人依頼を出しても誰も面接に来ない。実は2間3間のプレファブ小屋でトイレも仮設で

したので、そんな会社には人は来ないですよ。

無理矢理ですが思いきって事務所を借りる様にしました。

人がいないと受注しても設計が出来ない事から初めて銀行にお願いしてお金を借りる様にしました。3ヶ月後には事務所を手に入れました。しかし難しいことも有りましたが自分に頑張れと言いつけながら誠心誠意仕事をしてきました。

スルホン化設備の建設工事も終わりその後もライオン千葉工場内の化粧品棟の建設・乾燥棟の増設や液体洗剤の2期工事と沢山の仕事を頂き活躍をさせて頂きました。

本郷さんとは設計と工事の立場でいろいろと協力し合いながらお互い仕事をしていました。

当時ノッキングが出ないハイオクガソリンの脱硫装置の改造工事がありその設計と工事管理の仕事で2プラント依頼があり受注しました。（ガソリン脱硫装置は重質油を分解装置で精製しそのガソリンの硫黄分を削減するプラントです） 私が55才（2000年代）位の時ですから精力的に動いている時期ですね。海外の仕事も勢いで受注しました。海外ではシンガポールでのビスフェノール建設工事の配管工事の管理を大手エンジニアリング会社から受注して3人ほど赴任させました。

このころ海外派遣マレーシア・タイなどトンガ王国、そのほかベネズエラでは機器の据え付け工事で派遣私は現地契約でしたので1週間ほど観光を交えて行ってきました。

現在は設計人が45名・現場管理者が15名（派遣社員）で60人くらいで運営しております。

但し、設計人の45名のうち20名くらいが新旧交代でベテランが少なくなりました。平均年齢が39才ですから私たち年令のものからすると考え方がだいぶ違ってきています。顧客担当の年令も同様だと思いますので、お互い理解し合いながら仕事をしているのだと思います。

現在各石油元受け会社は地震対策として耐震強度を見直ししなければいけないことになっていますので、その仕事をさせてもらっています。この仕事はあと数年しか続きません。

今は配管の耐震ソフトだけですがこれから今後機器や建築物などの計算ソフトを高いけれども導入してゆかねばいけないのかなと思っております。これからの心配事はコロナの事もありますが、石油業界も縮小してゆくのではないかと思いますのが、会社を維持してゆくには何か別の業種の仕事も考えていかなければならないのかなと思います。

又は、異業種の会社とコラボしながらお互い助け合いながら世間を泳いでいくしかないのかな・・・と他人事のように思っております。

まとまりのない専門的な話でしたが、ご清聴ありがとうございました。

